

令和 5 年 6 月 16 日現在

機関番号：12102

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2019～2022

課題番号：19K00442

研究課題名（和文）現代ヨーロッパ文学におけるカストロフィ表象についての総合的研究

研究課題名（英文）Synthetic Studies on the Representation of Catastrophe in European Literature

研究代表者

対馬 美千子 (TSUSHIMA, Michiko)

筑波大学・人文社会系・教授

研究者番号：90312785

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,700,000円

研究成果の概要（和文）：現代ヨーロッパ文学におけるカストロフィ表象について、サミュエル・ベケットの作品を軸に様々な視点（小説、演劇、思想）から考察を行った。また海外の研究者を招聘し、ベケットとカストロフィ表象についての国際共同研究のため、研究の打ち合わせを行った。それに加えて海外研究者と同テーマについて意見・情報交換を継続的に行った。これらの研究活動を通して日本を拠点とした世界的ネットワークを発展させることができた。さらにこの成果である英語の論文集、Samuel Beckett and Catastropheの出版準備を行った。この論文集は、2022年12月Palgrave Macmillan から出版された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究はますます混沌とし、人類破滅、地球の終わりが現実感を増している現代という時代との関わりにおいて、文学や演劇、思想が照らし出す知を分析し、解明するものである。特にカストロフィが常に隣り合わせである状況に置かれた人間の不安とトラウマが描かれているベケット作品を主に参照しながら研究することにより、様々なカストロフィ的現実にも苦しむ現代世界の状況に向き合い、応答する現代的な人文知のあり方を提案するものである。

研究成果の概要（英文）：We studied the representation of catastrophe in Contemporary European Literature from various angles (novels, theatre, thought), focusing on the works of Samuel Beckett. We invited a researcher from abroad and held a research meeting on Beckett and catastrophe. We also continued to discuss the same theme with researchers in other countries. Through these research activities we could develop the international research network based in Japan. We prepared for the publication of a collection of essays entitled Samuel Beckett and Catastrophe. The collection was published in December, 2022 from Palgrave Macmillan.

研究分野：人文学

キーワード：カストロフィ サミュエル・ベケット 現代ヨーロッパ文学

### 1. 研究開始当初の背景

本研究は、現代ヨーロッパ文学における痛みの表象及びトラウマの研究を行なって来た 4 度の挑戦的萌芽研究の延長線上にあり、これまでの研究を継続し発展させるものである。これまで、日、英、米、カナダ、アイルランドの主要なベケット研究者の間に日本を研究拠点とした国際的な研究ネットワークを築くことができた。その研究成果を 2 冊の日本を発信地とする英語の論文集、*Samuel Beckett and Pain* (Rodopi, 2012)、*Samuel Beckett and trauma* (Manchester UP, 2018)として刊行した。どちらの本も実績のある欧米の研究者が執筆した数本の論文を含む英語の論文集で、応募者 3 名が企画・編集・執筆にあっている。本研究はこれまで構築した世界的ネットワークを継続し発展させながら、痛みやトラウマ表象というテーマの延長線上で、カタストロフィ表象の研究を行うものであった。この共同研究の第一歩として、応募者 3 名は 2018 年 10 月に国際アイルランド文学協会日本支部が開催する国際学会で、'Samuel Beckett and the Imagination of the Post-catastrophe' というシンポジウムを企画し、発表した。ベケット作品の中でもとくに核戦争と思しきカタストロフィを経験し生き残ったと考えられる人間に焦点を当てた『エンドゲーム』を中心に、人間が災害後の世界、それも世界の終わりにどんな思考をし、どんな苦しみに耐え、自らの病と死を受け入れていくのか、あるいは抵抗しつつ死んでいくのかを考察した。次には第 3 集となる 'Samuel Beckett and Catastrophe' というテーマの英語の論文集の刊行をめざすことにした。

### 2. 研究の目的

(1) 本研究は現代ヨーロッパ文学におけるカタストロフィ表象について小説、演劇、思想の総合的視点から考察することを目的とした。本研究は、現代ヨーロッパ文学における痛みの表象及びトラウマ表象についての過去 4 度の挑戦的萌芽研究の延長線上にあり、これまでの研究を発展させるものである。これまで構築した世界的ネットワークを継続し発展させること、前回のトラウマというテーマの延長線上で、カタストロフィ表象について考察することを主眼とした。

(2) 本研究課題の核心をなす学術的「問い」は、現代ヨーロッパ文学において、戦争や自然災害や大惨事といったカタストロフィがいかに作家の想像力をかき立て、表象されているかである。この問いについて小説、演劇、思想の 3 セクションの総合的視点から考察した。本研究では、カタストロフィが作家の思考や思想にどのような影響をもたらしているか、そして作品の言語や構造にどのような変革を与えているかを考察し、さらにその考察にもとづき、破壊的経験を多く抱える現代において、文学がカタストロフィに対して提示する警告や啓示とはいかなるものであるかを明らかにした。

### 3. 研究の方法

(1) 研究体制は、田尻を中心とする小説セクション、堀を中心とする演劇セクション、対馬を中心とする思想セクションという 3 つの研究セクションで構成され、全体の統括者は対馬である。3 年間の研究は以下の方法・計画に沿って進めた。

(2) 2019 年度：以下の作業を中心に進めていった。研究資料や文献を収集し、その資料整理を行った。セクションごとに現代ヨーロッパ文学におけるカタストロフィ表象の問題について分析を行った。の考察の成果を発表し、海外共同研究者との意見交換を行うための研究会を外部に開かれた形で開催した。外部の参加者との研究の交流の場として考察を深める契機とすると共に、本研究の参加者がベースとしての考察を共有した。2020 年度：まず年度当初に、全体会を通じて、前年度の研究会を中心とした研究活動の成果をもとに、それぞれのセクションにおける現代ヨーロッパ文学におけるカタストロフィ表象の問題についての問題域を確定した。さらに、文化創造活動である文学と、現代社会との関わりを考えながら、現代社会に対してどのような学問的寄与ができるかに関する考察を深めていった。同時に以下の作業を進めた。

各セクションでの研究を深めるために、研究資料や文献をさらに充実させ、入手した資料や文献のリストの整理を行った。前年度に引き続き、セクションごとに現代ヨーロッパ文学におけるカタストロフィ表象の問題について様々な角度から分析を行い、考察を深めた。各研究者は、海外共同研究者との意見交換を推し進めながら、国内外の学会で、それまでの研究の成果を発表した。翌年度、3 年間の研究の成果を論文集の形でまとめ、研究叢書（執筆言語は英語）として英語圏の出版社から出版するための準備を行った。2021 年度：過去 2 年間の研究活動を通して得られた成果を全体としてまとめあげた。年度当初に全体会を開き、前年度の成果を踏まえたうえで、本研究が現代社会に対して提示できるカタストロフィ表象としての文学の問題についての考察をまとめていった。その延長線上で以下の作業を進めた。前年度に引き続き、セクションごとに現代ヨーロッパ文学におけるカタストロフィ表象の問題について様々な角度から分析を行い、考察を深めた。3 年間の研究成果を論文集の形でまとめ、研究叢書として英語圏の出版社から出版する準備を行った。2022 年度：2021 年度に引き続き、3 年間の研究成果を論文集の形でまとめ、研究叢書として英語圏の出版社から出版する準備を行った。

#### 4. 研究成果

(1)小説、演劇、思想セクションごとに、現代ヨーロッパ文学におけるカストロフィ表象について、ベケットの作品を軸に様々な角度から分析を行った。またその分析結果を学会発表、論文、図書の形で発表した。小説セクション(田尻)：20世紀最大のカストロフィとも言える核兵器の開発と広島、長崎での実戦使用が、第二次世界大戦後のヨーロッパ及びアメリカの大衆的想像力の中にどのような影響を及ぼしたかについて、特に宇宙人による地球侵略や怪獣を主題とした映画との関係について考察した。特に日常生活と核の脅威の関係について、三島由紀夫の小説『美しい星』について論文を執筆し(『三島由紀夫小百科』所収、水声社、2021年刊)、さらに、ベケットの『エンドゲーム』などの戯曲について、共同編集した論文集 *Samuel Beckett and Catastrophe* (Palgrave Macmillan, 2022)のために ‘Catastrophe and Everyday Life in Samuel Beckett’ という論文を執筆した。演劇セクション(堀)：キャサリン・ケラーが定義する Feminist Counterapocalypse という概念をもとに、サミュエル・ベケットの戯曲『カストロフィ』を分析した。独裁者の権力に対し、弱者(アナ・チンが定義する Precarity)が結束して抵抗する劇として読み直した。さらに欧米を中心に、近代の父権制社会が進歩と前進を追求するあまり、度重なる地球的規模の戦争や災害をもたらしたことに批判の目を向けるベケットは、昨今の資本主義批判やディープ・エコロジー思想の先駆けともいえる思想の片鱗をその作品で展開している。ことに代表的な戯曲『ゴドーを待ちながら』は、そんなベケットの、今日のエコロジー思想と響きあうところが随所にみられる。そこで、ベケット自らが演出した『ゴドーを待ちながら』にはエコロジカルな意識が強く打ち出されている点にも目を向けた。思想セクション(対馬)：上記の論文集 *Samuel Beckett and Catastrophe* のために執筆した論文では、『マロウン死す』、『幽霊トリオ』、『エンドゲーム』の分析を中心に、ベケット作品における「灰色」とカストロフィの事後性の関係性に着目し、ベケットとカストロフィ表象について考察した。その際、パウル・クレーの「灰色」についての考察やジャン=リュック・ナンシーの「あとで」の時間性についての議論を参照した。その他、『ゴドーを待ちながら』の分析を通して、人間から世界自体が奪われるカストロフィックな状況において「人間と世界との絆」が現れることについて、ベケットの「人間の条件」への関心との関連で考察した。また、ベケットのラジオ劇『すべて倒れんとする者』における日常の解体の問題についてモーリス・ブランショによる「日常」の理解を通して考察した。

(2)各セクションにおいて、現代ヨーロッパ文学におけるカストロフィ表象に関する研究資料や文献を収集し、その資料の整理を行った。

(3)海外の研究者を招聘し、ベケットとカストロフィについての公開の研究会を開催した。また海外の研究者に執筆を依頼し、同テーマの英語の論文集の出版準備を進めた。これらの活動を通して、前回の研究で築いた日本を拠点とした世界的な研究ネットワークを発展させた。2019年12月には、Trish McTighe氏(Queen's University Belfast, UK)を招き、青山学院大学で開催された研究会においてベケットとカストロフィについての話をしてもらい、意見・情報交換を行った。(4)で説明している英語の論文集の出版準備を通して、執筆者であるイギリス、アメリカ、フランス、日本の7名の国内外の研究者と意見・情報交換を継続的に行い、研究ネットワークを発展させた。論文集の執筆者として、本研究に参加した研究者は以下の通りである。Jean-Michel Rabaté氏(University of Pennsylvania)、Llewellyn Brown氏(Lycée international de Saint-Germain-en-Laye, France)、森尚也氏(神戸女子大学)、William Davies氏(Independent Scholar)、Jeff Fort氏(University of California at Davis, USA)、Laura Salisbury氏(University of Exeter, UK)、Trish McTighe氏(Queen's University Belfast, UK)。

(4)研究の成果を英語の論文集 *Samuel Beckett and Catastrophe* として Palgrave Macmillan 社から2022年12月に刊行した。出版のために定期的に会合を開き、意見交換を行った。また3人で協力し、出版社との交渉、イントロダクションの執筆、編集作業、校正、索引作成などの作業を行った。

(5)最大の研究成果は、(4)に記した共同編集した論文集 *Samuel Beckett and Catastrophe* であるが、同書は、サミュエル・ベケットの研究において国際的にも初めて、カストロフィとの関係に絞った研究書であり、そのインパクトは十分に大きい。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計5件（うち査読付論文 4件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 堀真理子	4. 巻 第14号
2. 論文標題 Waiting for Godotにおける「存在の不安定さ」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 関東英文学研究	6. 最初と最後の頁 1-9
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Michiko Tsushima	4. 巻 -
2. 論文標題 "The Human Condition" in Samuel Beckett's Waiting for Godot	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 The Asian Conference on Arts & Humanities 2020 Official Conference Proceedings	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Mariko Hori	4. 巻 No. 3
2. 論文標題 Hamm's Ambivalence in Endgame, a Post-catastrophe Play	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Aoyama Keizai Ronshu	6. 最初と最後の頁 1-13
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Michiko Tsushima	4. 巻 Vol. XXXIV
2. 論文標題 The powerlessness to imagine at the heart of imagination in Beckett	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Journal of Irish Studies	6. 最初と最後の頁 90-101
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Michiko Tsushima	4. 巻 -
2. 論文標題 The Spatiotemporal Dimension of 'after' in Samuel Beckett's Endgame	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 The Asian Conference on Cultural Studies 2019: Official Conference Proceedings	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

[学会発表] 計14件 (うち招待講演 0件 / うち国際学会 10件)

1. 発表者名 Mariko Hori Tanaka
2. 発表標題 Samuel Beckett and Tadashi Suzuki
3. 学会等名 Beckett & Japan: A Virtual Seminars, presented by Samuel Beckett Working Group at IFTR and the School of Arts, English and Languages at Queen's University Belfast (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Michiko Tsushima
2. 発表標題 Coming in Touch with the Inner Truth of Life: The Unnamable and Daisetz Suzuki's 'Spiritual Insight'
3. 学会等名 Beckett & Japan: A Virtual Seminars, presented by Samuel Beckett Working Group at IFTR and the School of Arts, English and Languages at Queen's University Belfast (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 対馬美千子
2. 発表標題 内なる「場所」 - 『名づけられないもの』と大拙の「靈性的直覚」
3. 学会等名 日本サミュエル・ベケット研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Mariko Hori Tanaka
2. 発表標題 Samuel Beckett and Tadashi Suzuki
3. 学会等名 Beckett & Japan: A Virtual Seminars, presented by Samuel Beckett Working Group at IFTR and the School of Arts, English and Languages at Queen's University Belfast (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Michiko Tsushima
2. 発表標題 Coming in Touch with the Inner Truth of Life: The Unnamable and Daisetz Suzuki's 'Spiritual Insight' "
3. 学会等名 Beckett & Japan: A Virtual Seminars, presented by Samuel Beckett Working Group at IFTR and the School of Arts, English and Languages at Queen's University Belfast (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 対馬美千子
2. 発表標題 内なる「場所」 - 『名づけられないもの』と大拙の「靈性的直覚」
3. 学会等名 日本サミュエル・ベケット研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Michiko Tsushima
2. 発表標題 The Being-Together in Samuel Beckett's Endgame
3. 学会等名 The Kyoto Conference on Arts, Media & Culture 第2回年次大会 (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Mariko Hori Tanaka
2. 発表標題 A Hope in Beckett 's Catastrophe
3. 学会等名 Online Samuel Beckett Working Group 2020 (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 堀真理子
2. 発表標題 黙示録に抗うフェミニズム解釈としてのPrecarity サミュエル・ベケットの『カタストロフィ』再考
3. 学会等名 日本サミュエル・ベケット研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Michiko Tsushima
2. 発表標題 Attunement: Coexistence with the Nonhuman Environment in Malone Dies
3. 学会等名 Samuel Beckett and the Anthropocene (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Michiko Tsushima
2. 発表標題 "The Human Condition" in Samuel Beckett 's Waiting for Godot
3. 学会等名 The Asian Conference on Arts & Humanities第11回年次大会 (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Mariko Hori Tanaka
2. 発表標題 Hamm's Ambivalence in Endgame, a Post-catastrophe Play
3. 学会等名 IFTR's annual conference at Shanghai Theatre Academy, Samuel Beckett Working Group (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Michiko Tsushima
2. 発表標題 The Spatiotemporal Dimension of 'after' in Samuel Beckett's Endgame
3. 学会等名 The Asian Conference on Cultural Studies第9回年次大会 (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 対馬美千子
2. 発表標題 貧しさと想像力
3. 学会等名 日本サミュエル・ベケット研究会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計7件

1. 著者名 Yoshiki Tajiri	4. 発行年 2022年
2. 出版社 Palgrave Macmillan	5. 総ページ数 221
3. 書名 Samuel Beckett and Catastrophe	



1. 著者名 Mariko Hori Tanaka	4. 発行年 2022年
2. 出版社 Palgrave Macmillan	5. 総ページ数 221
3. 書名 Samuel Beckett and Catastrophe	

1. 著者名 Michiko Tsushima	4. 発行年 2022年
2. 出版社 Palgrave Macmillan	5. 総ページ数 221
3. 書名 Samuel Beckett and Catastrophe	

1. 著者名 Mariko Hori Tanaka	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Brill	5. 総ページ数 341
3. 書名 Beckett's Voices/Voicing Beckett	

1. 著者名 Michiko Tsushima, Laurence De Vos 他	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Brill	5. 総ページ数 341
3. 書名 Beckett's Voices/Voicing Beckett	

1. 著者名 Mariko Hori Tanaka, Thirthankar Chakraborty, Juan Luis Toribio Vazquez	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Bloomsbury	5. 総ページ数 219
3. 書名 Samuel Beckett as World Literature	

1. 著者名 Mariko Hori Tanaka, Anita Rakoczy, Nicholas E. Johnson	4. 発行年 2020年
2. 出版社 L' Harmattan Publishing	5. 総ページ数 168
3. 書名 Influencing Beckett / Beckett Influencing	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	堀 真理子  (Hori Mariko)  (50190228)	青山学院大学・経済学部・教授   (32601)	
研究分担者	田尻 芳樹  (Tajiri Yoshiki)  (20251746)	東京大学・大学院総合文化研究科・教授   (12601)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------

米国	University of Pennsylvania	University of California at Davis		
英国	University of Exeter	Queen's University Belfast		
日本	神戸女子大学			